

紀南教会瓦版

発行所
紀南キリスト教会
紀南教会瓦版
編集委員会
和歌山県田辺市
下屋敷町80
TEL/FAX
0739-25-1191



三月になろうとしています。厳しい寒さが続きます。北海道・東北・そして日本海に面した多県は大変な豪雪で被害が出ています。自然の前には人間の力は非力に見えますが、助け合い、励まし合う心は貴く、そして力です。何時も祈りに覚え、早く温かい春が来ますように願っています。

編集委員一同

W・Mヴォーリス(一八八〇年〜一九六四年)は滋賀県近江八幡市を中心に自給自足の

ヴォーリス信仰と近江商人の精神

療・教育)を展開しながら福音宣教につとめた信仰の先達である。

近江八幡は「近江商人」発祥の地として有名である。よく近江商人の精神として『三方よし』(売り手よ

し、買い手よし・世間よし)が紹介され、随分と昔から近江商人は社会的責任(と

Neighbour(隣人) Self(自分)の順番で考える」との彼の思想であると紹介されている。そして近江商人の「三方よし」の精神とヴォーリスの思想には共通点があり、ヴォー

リスが近江商人の精神の良き理解者であり、実践者であるとも言われている。

しかし、私は近江商人の精神とヴォーリスの思想は「似て非なる物」であると考

えているのに対して近江商人のそれは、自分売り手からは始まり相手買い手(

私生まれ育った実家は、神仏具店を営んでおりました。神仏具を扱っていると、あらゆる宗教の信者さんがお客様です。宗派の異なる仏教、神道、様々な宗教を信じ、それぞれの儀式の用意にと品物を買って下さいます。皆さんがそれぞれの神様の日常のお陰を感謝しているように子供心に感じていました。

ある時期、丁度娘の年頃に「どの神様が本物だろ」と考えるようになった。そんな折りに、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」という本に出会いました。これが私の初めてのキリスト教徒の出会いであ

つたと思います。文中で「命より大切なもの」という言葉に「そんなものが本当にあるのだから」と自分の内の小さな頭の中で考えていたのを憶えています。そして、そんな事を書き残した宮沢賢治の本を読んでいききました。彼は、日蓮にふれ、法華経や国柱会に強い思いがありました。キリスト教との関わりもあり、銀河鉄道の夜が書かれたこの事でした。

私自身、全く何が何だか判らなくなり、とにかく人によって涙することがある度にその人を知りたくなり、話を聞くように努めました。そうすると、何らかの形で信仰していることが多

なりました。本物の神様にすがるとは、自分次第な事だと思っています。

デグ



「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい。さもないとあなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる。」(マタイによる福音書六：一)

良いことをしている時は、誰かに見て欲しいと思

つし、悪いことをしている時は誰にも見られたくないと思う。とかく人は他人の目を気にするものである。

人の目

紀南教会牧師 上山耕司

【ある会社の休憩室の壁に「コーヒー、一杯五十円で、すいそう張り紙がしてある。その下にはお金を入れる箱がある。しかし、お金を入れなくても、コーヒーメーカー

お金を払う人は「割(一人に一人)にも満たない」という結果が出た。ところが、「一杯五十円」と書かれた紙に「ある写真」を添えたところ、お金を支払っ

「見られている」と思うことで、多くの人がお金を支払うようになったのである。【一月三日 N HKスペシャル ヒューマン・弱いからこそ生き残り

善行を誇る誘惑となった。さらにはそれがプレッシャーになって自分を見失ってしまふことになる。人の目が気になるといふことは自然なことであり、本来それ自体、誰も持っていないものであるが、ただ、それが余りにも過敏になつてしまふと、それに左右され自分が自分でなくなつてしまつたり、被害妄想にさえなつてしまふ。どのよう

幼子は無邪気である。他人の目を気にすることもない。この幼子の無防備のありのままの姿は羨ましい限りである。裸でも恥ずかしいとは思わない。それを誇つたり、被害妄想になつたりすることもない。親の愛の中で安心して切つて身を委ねているからだ。

なつたと記されている。神の前に裸で、ありのままではいられなくなつたということだ。人は何かやましいこと後ろめたいことがあるばそれを隠そうとする。隠せば隠すほど、不安になり人の目が気になる。ますます取り繕い、飾り立てる。泥沼である。私たちも神の愛の中で、幼子のように安心して身を委ねることが出来るなら、裸を隠すことも人の目を気にすることもなくなるのではないだろうか。キリストとの出会いは

この泥沼の中で起こり、神の愛の中へと導いていく。



カーからは自由に「コーヒーを飲むことができる。さて、あなたは五十円を入れるかどうか? イギリスのある実験によれば、この状況下で

た人の数は実に七倍の「七割(一〇人に七人)」にまで急上昇したという。さて、その「ある写真」とは? それは、「人の目」である。

た)から。人間には人の目を気にするという性向がある。それがある時は悪の抑止力になったり、又ある時は自分の

創世記には、人は神の戒めを破つた時から、目が開け、自分たちが裸であることを知り、腰を覆うように

二月、紀南教会瓦版また新たな一年のスタートです。次号三十四号は五月二十七日の発行予定です。

二、紀南教会瓦版また新たな一年のスタートです。次号三十四号は五月二十七日の発行予定です。